

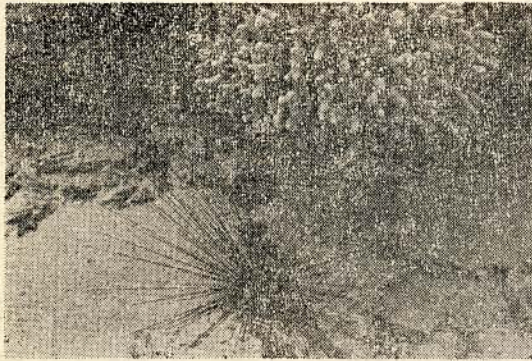
サンゴ礁の島奄美の海底を潜る



タイマイを追う。
「それ」とばかりに追いかけたが、しよせん陸上動物である我我は、海の住人？にはかなわず、我々を尻目にゆうゆうと姿を消した。

—沖永良部島—

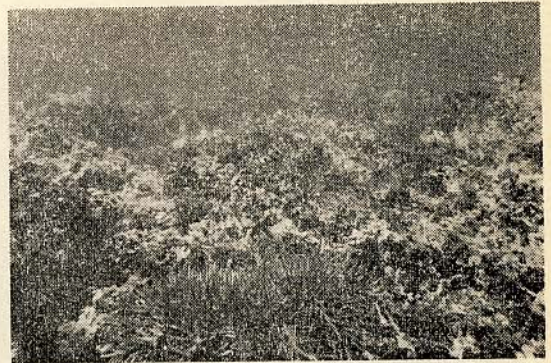
S 4 2 春



ガンガゼ

棘は殻の直径の 5～6 倍に達し、中空で脆く触れると体内に折れ込んで抜け難く、激痛を与える。

—沖永良部島— S 4 2 春

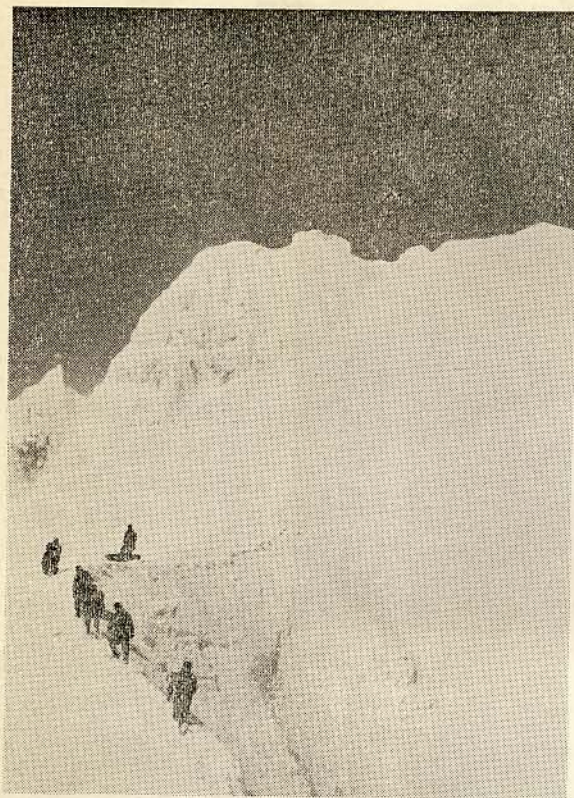


オニヒトデ

シコロサンゴの上に数十ものオニヒトデが群生しており、その附近には、シコロサンゴと少しの魚以外の生物はあまり見られない。

このオニヒトデは、直径 5 0cm ほどもあり、背面には 3～5cm に及ぶ長くて鋭い棘を被っている。この棘には毒性があると言っている人もあるが、我々の体験では毒性はないようだ。

—沖永良部島— S 4 2 春

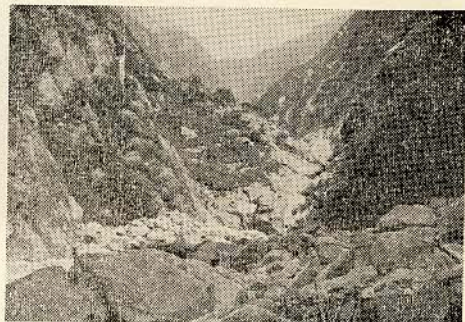


北海道利尻岳東稜

←この日、天候はすばらしく我々は、B・Cを約300m地点の所に置き、第2次東稜アタックを試みた。

最後は、かなりの雪の斜面となっておりやや緊張する。正面が本峰、左に南峰、右に北峰がある。

— S 4 1.春—

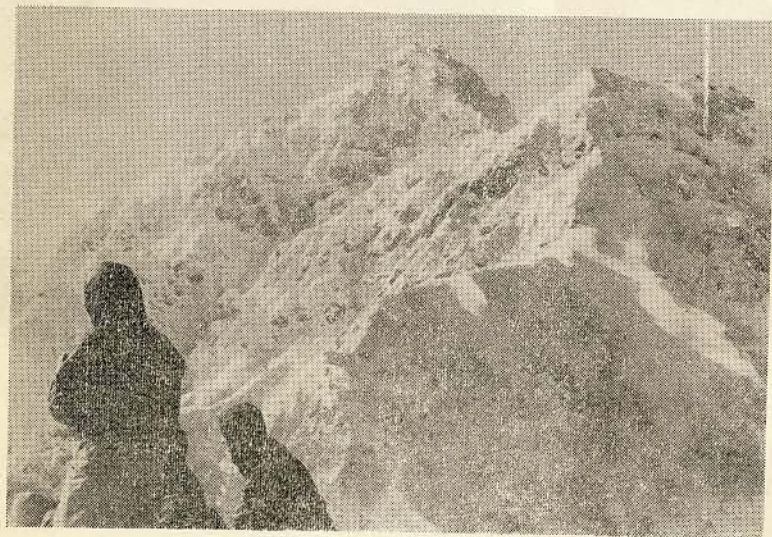


黒部別山沢右俣

↑雪溪の状態が悪かったので、右俣に入るまでに2度の懸垂下降を要した。

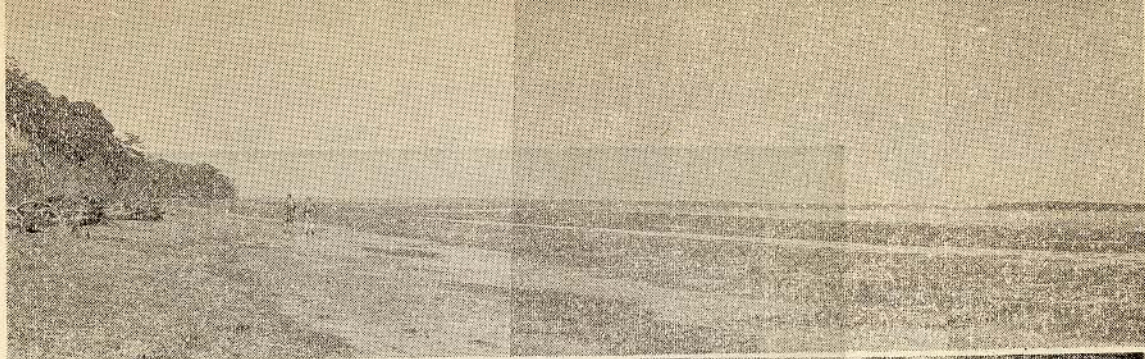
最初は容易な登りであったが、やがて雪溪が表われ、最後のつめはザラザラの最悪の登りとなった。稜線のコルに出てからも道はなく、猛烈なブッシュでこの日はブッシュの中でビヴァークする事になった。

— S 4 2.夏—



槍ヶ岳北鎌尾根

↑好天に恵まれ雪の状態もよく、アイゼンが気持ちよく効く。北鎌沢コルへC・1を建設に向う途中、6峰にて、中央ピークが独標（ここにA・C建設）。右のピークが天狗の腰掛 — S 4 1.冬—



北海道風蓮湖湿原調査

↑風蓮湖の面積は 52.0km^2 で、対岸と水面との区別が
難しいほど広く感じられる。—ヤリムカンより—S 42夏—

→水質 検査・湖底の土砂の粒度及び採集したプランクト
ンの分類。 —走古丹小学校にて—S 42・夏—

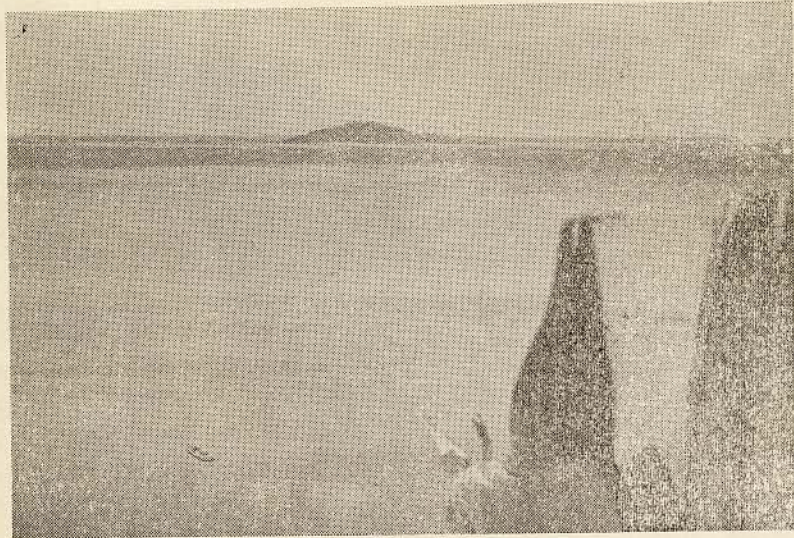


宮古ツヤガニ信仰 の島「大神」

←亜熱帯植物の生い茂
る、周囲わずか 1km の
この島に渡るには、写
真左下に見えるサバニ
と呼ばれる3人位しか
乗れないクリ舟で、波
の荒い海を渡らねばな
らない。

—宮古本島最北端狩俣
村より—

—S 42・春—



黒部源流への挑戦



←激流との闘いをおえ、神秘的な静かな流れに入ろうとする彼らの心に浮ぶものは何にか。しかし、現実には少しの気のゆるみも許されない。
 “嵐の前の静けさ”
 といわれる通りである。水の流れは何んと気まぐれなのであろうか。

—立石付近S42.夏—



↑激流にまさに入らんとする時の彼らの行動は、第三者から見れば、何んとまちまちであろうかと、不信に思われるかもしれないが、彼らが自分の持ち場の責任を遂行して、初めてゴムボートにおけるチームワークが誕生するのだ。

—立石付近—S42.夏—



↑水と岩ともまれたたかた後、ボートを修理する時、彼らはつぶやくであろう「よく頑張ってくれた明日も頼むぞ」と……………。

—立石付近—S42.夏—